

# こうみょう

第6号

この如来にょらいは光明こうみょうなり。光明こうみょうは智慧ちえなり。

智慧ちえはひかりのかたちなり。

親鸞しんらん聖人しょうにん著作しよさく『一念多念文意いちねんたねんもんい』

新しい年を迎えました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、なんとか、この通信を4回発行することが出来ました。このペースで、今年も発行してまいります。出来たら、ご門徒の皆さまのご意見も掲載したいと考えております。どんなことでも結構ですので、感想をお聞かせ下さい！

昨年あたりから、「終活（しゅうかつ）」ということが気になっています。いろいろな場所で、「終活セミナー」が開催されています。しかし、その多くは、どのように人生を終えていくか、つまり、どのように死んでいくか、という内容になっている様に思えるのです。たとえば、葬儀はどうするのか、お骨はどうするのか、財産相続はどうするのか、家族に何を遺すのか・・・。僕が大切にしたいと思うことは、死にゆくいのちをいかにして「生きて往（ゆ）く」のかということ。このいのちが必ず死を迎える、ということは、私たちにとって大問題でしょう。今どれほど死んだときのことを考えても、予定通りにはいきません。むしろ、今を「生きる」ことを大切にしたいのです。

仏の教えを依りどころにして、死にゆくいのちを生きて往く。この私の「いのちの物語」を紡いでゆける、そのような「終活」を、お寺で開きたいと思っています。今年目標です！



真宗本廟(京都・東本願寺)の報恩講 晨朝(朝のお勤め)の風景

第6号

2018年1月1日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

メールアドレス：

koumyouji@sky.plala.or.jp

# 報恩講厳修のご報告

2017年11月12日(日)、晴天の下、40名ほどのご参詣をいただき、当寺報恩講をお勤めいたしました。

報恩講とは、真宗門徒にとって、一年の中でもっとも大切な仏事であります。本山(京都・東本願寺)では、宗祖親鸞聖人の御祥月命日である11月28日まで、一週間にわたり勤められます。

全国の末寺では、本山にならって親鸞聖人の御命日近くに勤められますが、光明寺では、毎年11月の第2日曜日にお勤めしています。皆さまの、ご参詣をお待ちしております。



一緒に「正信偈」をお勤めします



黒田先生の、映像を用いたご法話

報恩講は、親鸞聖人の明らかにされた本願念仏の教えに会い、自らのよりどころを教えにいただいた御恩に報謝する集いです。仏の教えを聞くことを通して、迷信に惑わされることのない念仏申す生活を、ご一緒に確かめ合うことが願われています。

さて、当日の様子ですが、まずはみなさんで一緒に、声に出して、「正信偈」のお勤めをいたします。報恩講では、いつものお勤めよりも重くなりますので、ゆっくりですが、少し難しくなります。

念仏・和讃も五淘(いつつゆり)と言って、難しい調子になります。それは、報恩講という仏事が大切な法要であることによります。

法要後のご法話は、いつもは法要にご出仕いただいている、港区勸勝寺のご住職、黒田昭雄先生でした。映像を用いつつ、親鸞聖人のご生涯について、分かり易く丁寧で、なおかつ楽しく聞法させていただきました。



お齋という名の懇親会です

法要とご法話の後には、2階に上がって、みなさんでお齋(おとき)をいただきました。お齋は本来精進料理になりますが、光明寺のお齋は、煮物や煮豆(うずらまめ)のほか、名物であります柿入りの「白和え」を、ご門徒のご婦人方に調理していただいています。実は、それだけではなく、せっかくの集いですので、懇親会の意味もあり、お酒やお刺身もいただいています(お恥ずかしながら、住職は一滴もお酒は飲めないのですが...)。いろいろとお話をさせていただきました。皆さんがお帰りになった後に、今後の仏事について親子で一緒にご相談をされた方、また、日を改めて、ご葬儀のことについてのご相談をさせていただいた方もいらっしゃり、とてもありがたいご縁をいただきました。未経験の方、ぜひ一度、ご参詣ください!

## 仏事について・・・ごが知りたい!

### お内仏のお荘厳について

毎日手を合わせているお内仏（お仏壇）について、いくつか確認していきましょう。

まずは基本的なことですが、お内仏はお寺の本堂の内陣と同じく、「浄土」という世界を表現しています。ですから、中心には浄土の主である阿弥陀如来がいらつしやいます。浄土も阿弥陀如来も「はたらき」でありませんので、目に見えるものではありません。形のないものを形でもって表現しているのです。本堂やお内仏は浄土のお荘厳と言われます。

#### ① 三具足について

三具足とは、燭台（鶴亀など）・香炉・花瓶のことを言います。浄土真宗のお内仏には欠かせない仏具です。形は少し違いがありますが、並びが決まっています。左から花瓶（かひん）、真ん中に香炉、右に燭台となります。



真ん中に、青磁製の香炉を置くこともありますが、正式には、写真のような火舎香炉もしくは金香炉になりますので、一度ご確認ください。

#### ② お仏飯について

お内仏にあげるお仏飯は、基本的には朝のお勤めの後にお供えし、お昼に下げて、頂戴します。ここで誤解してはならないことは、あげたお仏飯は、阿弥陀さまやご先祖さまが召し上がるということではありません。それでは靈信仰になってしまいます。

形に意味があるのです。大谷派では、盛糟を使って、お仏飯を円柱状にします。この形は、浄土に咲く花、蓮華の実を表しているのです。西本願寺は、お仏飯をやま形に盛りますが、これは蓮華のつぼみを表し、どちらも蓮華の形で、浄土をお荘厳しているのです。



上、盛糟の使用例です



#### ③ 鈴（りん）について

鈴は、お勤めの合図・作法として用いられます。お内仏に対し「来たよ」という意味で打つのではないのですね。



お気持ちは何となく分かりますが…。

## 「終活（しゅうかつ）」について

この言葉、聞いたことがありますか？

就職活動を表す「就活」なら分かりますよね。

「終活」は、文字通り終わりへの活動です。

何を終えるのかというと、「人生」つまり、

この私の人生を終えていく活動のことです。

今は、あちこちで「終活セミナー」が開催

されています。自治体が主催するもの、葬儀

社が主催するもの、生命保険会社が主催する

ものや、NPO法人が主催するもの、社会福

祉施設が主催するものもあるでしょうか…。

しかし多くは、「死への準備」という内容

になっているように思われます。葬儀はどう

するか、お骨はどうするか、土地や預金など

の財産相続はどうするか…など、自分が死ぬ

ときにバタバタしないように、しっかりと準備

しておきましょうということです。

でも、他でもないこの私が「死ぬ」という

ことは大問題です。どれだけ準備していても

思い通りにはいかないかもしれません。

その、思い通りにいかない「いのち」をい

かに生きて行くのかということ、仏の教え

に尋ねていくということが、僕は本当の意味

での「終活」だと思っております。

どう死んでいくか、ではなくて、死にゆく

いのちを、今いかに生きて行くかが大切です。

だから、「終活」は仏教の課題なのです。

## 二〇一八年 年忌法要（亡くなった年）

四十九日法要…亡くなった日から四十九日

一周忌法要…二〇一七年（平成二十九年）

三回忌法要…二〇一六年（平成二十八年）

七回忌法要…二〇一二年（平成二十四年）

十三回忌法要…二〇〇六年（平成十八年）

十七回忌法要…二〇〇二年（平成十四年）

（二十三回忌法要）…一九九六年（平成八年）

二十五回忌法要…一九九四年（平成六年）

（二十七回忌法要）…一九九二年（平成四年）

三十三回忌法要…一九八六年（昭和六十一年）

五十回忌法要…一九六九年（昭和四十四年）

※地域により、二十三回忌・二十五回忌・

二十七回忌は、お勤めする習慣が異なり

ますので、お寺にご相談ください。

## お寺での「つどい」を開きます！

### 写経の会

静かに墨で教えの言葉を書写することで、自分を見つめる大切な眼（まなこ）をいただくことができるのではないのでしょうか。

日時 4月18日（水） 14時～17時

お好きな時間に、お好きなだけ…

会場 光明寺本堂または2階の座敷

会費 なし（書写本の代金がかかります）

※まずは、「正信偈」を書写しましょう！

※毎月、第2か第3の水曜日開催です。

### 光明寺同朋の会（法話の会）

日頃親しんでいる「正信偈」には、どのような教えが記されているのかを学びます。親鸞聖人が私たちに伝えたかったことを、ご一緒にたずねてまいりましょう。

テーマ 「正信偈」に学ぶ

日時 5月26日（土） 14時～16時

会場 光明寺本堂

会費 500円

※毎月、第3か第4の水曜日開催です。

## ホームページより、ある日の「住職の日記」

杉山平一 『生』

ものをとりに部屋へ入って

何をとりきたか忘れて もどることがあるもどる途中でハタと 思い出すことがあるがそのときはすばらしい

身体がさきに

この世へ出てきて しまったのである

その用事は何であったか

いつの日か

思い当たるときのある人は 幸福である

思い出せぬまま

僕はすくすくあの世へちる

・・・・・

杉山平一さんの、『生』という詩です。

人として生まれて、この世界との縁が尽きれば、いのちは本来の場所へ還（かえ）ってきます。

還るまでに、なぜ僕は生まれてきたのか、いつの日か思い出す時が来るのでしょうか。

なぜ生まれ、なぜ生きるのか…。

実は、僕なりに分かっているような気がするのですが…。

南無阿弥陀仏